桂スチール（岡山）

自動溶接機や台車など新設

BH生産量は月間6800トンで推移

ビルトH形鋼メーカー、桂スチール（第1工場＝岡山県備前市吉永町神根本、三木桂吾社長）は、第1・3工場（同市三石）および玉野工場（同県玉野市）の1～2月の設備投資について明らかにした。

三木社長

まず、第1工場で自社開発による久保工業製の自動溶接機2台、プレーナー1台、第3工場にNC機1台、横持ち台車1台、玉野工場に横持ち台車1台（2台目で、最大積載量は20トンまで可能）と、安全対策として監視カメラシステムを今月末日に数台設置する。

同社は昨年、第1工場に溶接機2台、仮組機1台、切断機（1300タイプ）2台をいずれも更新。溶接ロボットも新規に設置した。

また第3工場では、切断機、超硬ドリル、レーザー切断機、プラズマ切断機を各1台更新。

さらに玉野工場では、天井クレーン5台と台車を1台新設し、左右隣接地に既存建屋の建て替えによる板継ぎ専用と小板加工専用の2工場を建設している。

板継ぎ専用工場はスパン10×20㍍の規模で、玉野工場にある板継ぎ場を移設するかたちで本格的に加工を開始。

玉野工場では移設による空いたスペースを有効活用し、ビルトH形鋼の生産ラインを延長して、生産量を伸ばしている。

小板専用工場はスパン14×長さ36㍍の規模で、玉野工場からプレーナー1台を移設するとともに、プラズマ・ガス兼用切断機と孔あけ機を各1台新設した。

玉野工場は岸壁に30トンの水切りクレーンを備え、2000トンクラスの船舶横付けが可能であり、海上輸送の実現で大型サイズの鋼板から製作できる特徴を持つ。

こうした一連の設備投資で、ビルトH形鋼など各加工製品の生産量も安定的に推移している。

現状の生産量は、ビルトH形鋼が全工場で月間6800トンペース、梁加工が1200トン、一次加工が4500トン。板の在庫量は約2万7000トンで、TMCP鋼なども在庫している。

また昨年から、営業員や女性事務員も加えた工場内の安全パトロールとビルトH形鋼の製作や梁加工製品などに関する勉強会を実施。

「社員全員が、一つの目標に対して目的意識を持ちながら業務に携わり、社員一人ひとりのものづくりと安全対策に対する意識もさらに高まっている」（三木社長）と話す。

外国人技能実習生の活用にも積極的で、現在、インドネシア人を、昨年12月からベトナム人も受け入れている。「今後はインドネシア人、ベトナム人の増員を考えている」（同）という。

同社は今年5月に創立から30周年の節目を迎える。

「ここまで操業を続けてこられたのは、顧客の皆様に支えられたからこそ。今後も顧客のための生産体制を堅持し、何らかの形で恩返しをしていきたい」と語る。